

令和 4年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R04年度	R05年度	R06年度
活動 指標	給食実施回数（中学校）	回	目標	196.00	195.00	0.00
			実績	196.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	地産地消献立実施回数	回	目標	23.00	23.00	0.00
			実績	23.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	児童生徒の心身の健全な育成に必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	法により行政が実施すべき事業である。
	手段の妥当性	A 妥当である	現在の方法は一般的である。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	設備機器の点検・修繕・更新にコスト増が見られる。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	対象者に給食を提供している。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	地産地消の献立を提供している。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	対象者に確実に給食を提供している。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
- 安全安心な学校給食の提供を図るため、設備機器の点検・修理、調理委託、運転委託、衛生管理等の必要な措置を講じる。 - 栄養教諭による食に関する指導は、学校訪問により各学年に応じた細やかな指導を行っている。 - 児童生徒の食を通じた健康増進には、学校、家庭、福祉分野との連携・推進が課題となってくる。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
- 経年劣化による設備機器の修繕、食器、食缶などの更新を計画的に実施していく。 - 児童生徒が望ましい食習慣、食生活を身につけるためには、家庭での実践が不可欠である。保護者の食育への理解を得るため、家庭への働きかけも必要である。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 老朽化した施設の維持管理を継続し、安心安全な学校給食を提供するため、今後も各事業を実施していくとともに、食材についての検討を進める。（オーガニック給食、地産地消の拡大等）また、食育についての指導を継続し、児童生徒に食の大切さをPRしていく。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり	